

事 項	園地の消雪促進によるりんごの生育への効果		
ね ら い	融雪材（剤）による雪害対策はりんご生産指導要項に掲載しているが、平成17年春の大 雪で雪解けが遅れた条件下で、融雪促進材（剤）を散布してりんご園の消雪を早めたところ、 長期間雪に埋もれていた下枝の開花の遅れが少なくなり、果実肥大への悪影響が軽減 されることが明らかになったので、参考に供する。		
指 導 参 考 内 容	<p>1 開花状況 消雪を早めることにより、下枝（発出部が地上高70～90cm）での開花の遅れは軽減され、 上枝（発出部が地上高160～220cm）の開花とほぼ同じとなる。</p> <p>2 果実肥大 消雪を早めることにより、下枝（発出部が地上高60～90cm）の果実肥大は良好となり、 上枝（発出部が地上高160～220cm）の果実とほぼ同等の大きさとなる。</p>		
期待される効果	<p>1 同一樹内の上枝と下枝の開花が揃うことで、大きさの揃いや肥大が良好な高品質果実 の生産が期待できる。</p> <p>2 園地の消雪が早まることで、春先の作業をすみやかに行うことができる。</p>		
利用上の注意事項	3月上旬になっても下枝が雪に埋まっている場合、3月中～下旬に融雪促進材（土、く ん炭や市販の融雪促進剤）を2～3回程度散布する。		
担 当	青森県農林総合研究センターりんご試験場 栽培部	対象地域	県下全域
発表文献等			

【根拠となった主要な試験結果】

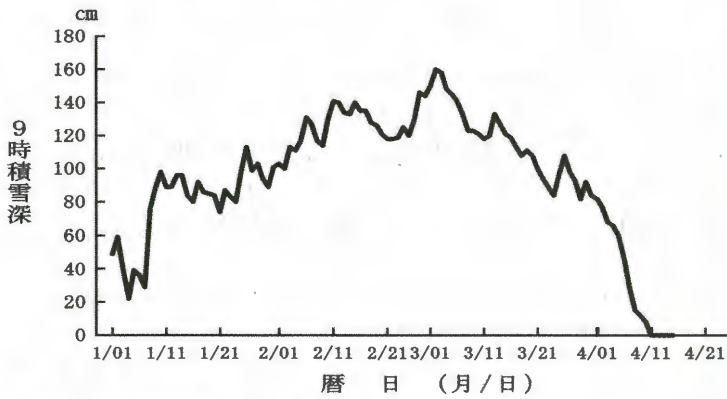


図1 9時積雪深の経過 (平成17年 青森農林総研りんご試)



図3 対照区の開花状況 (平成17年 青森農林総研りんご試)

(注) 1 対照区：図2と同じ
2 撮影日：2005年5月19日

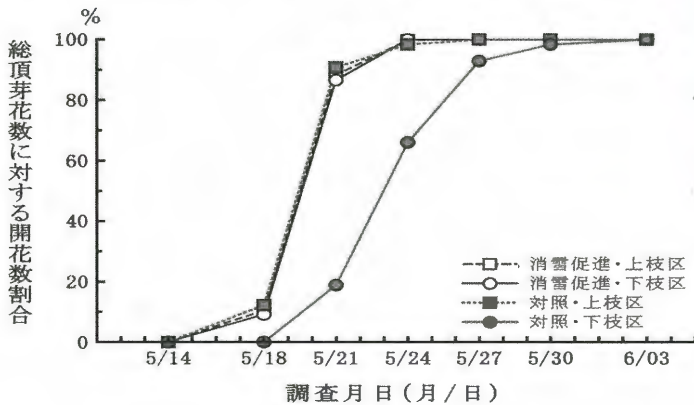


図2 上枝・下枝別の開花経過 (平成17年 青森農林総研りんご試)

- (注) 1 消雪促進区：3月14日と3月22日に融雪剤2回散布、ふじ/M. 26 (10年生)
2 対照区：春先の作業を進めるため、4月4日に融雪剤1回散布、ふじ/M. 26 (8年生)
3 供試枝：上枝は発出部の地上高160~220cm、下枝は発出部の地上高70~90cmで、雪害程度が無~微 (樹皮にひび割れ) の枝

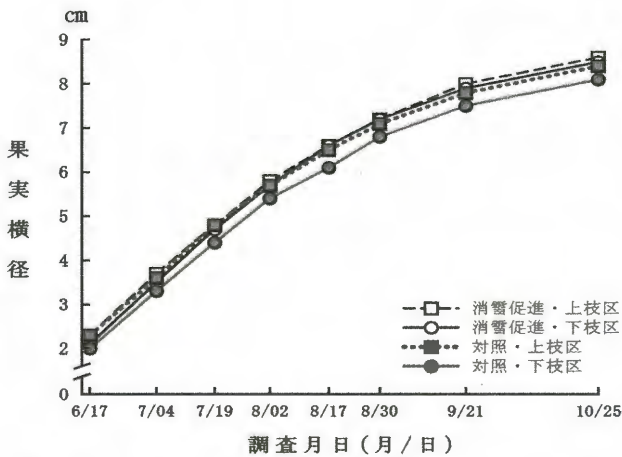


図4 上枝・下枝別の果実肥大

- (平成17年 青森農林総研りんご試)
(注) 1 消雪促進区、対照区：図2と同じ
2 供試果実：1区50果
3 供試枝：上枝は発出部の地上高160~220cm、
下枝は発出部の地上高60~90cmで、
雪害程度が無~微 (樹皮にひび割れ) の枝

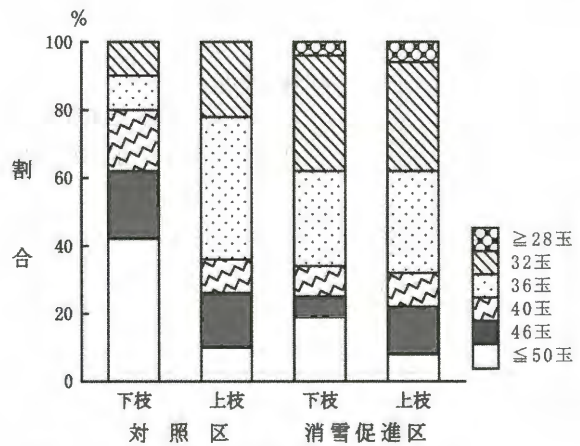


図5 果実の玉数別割合

- (平成17年 青森農林総研りんご試)
(注) 玉数 (10kg詰) は、最終調査時の果実横径で区分した。